

① 神津島こうつしま（東京都神津島村）—— 神津高等学校

## 東京の島々の先駆けとなった離島留学

神津島村教育委員会 教育長 石野田 博文

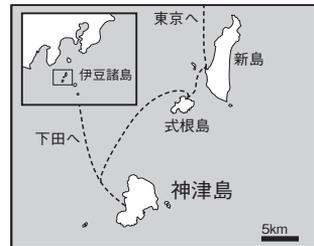
### ● 向学心のある生徒たちのためにも高校存続を

神津島は東京から南に約一八〇キロメートル、伊豆諸島のほぼ中間に位置しています。白砂青松の入り江と起伏に富む山野の景勝が、とりわけ美しい島です。島の中央部にそびえる天上山と緑の広がる大自然の各所には清水が湧いて、山菜や野草も多く繁茂しています。マムシなどの毒性の動物は、いつさい棲息していません。水質と透明度日本一にも選ばれたきれいな海と、四季を通じて温暖な気候に恵まれた、年間を通して快適なレジャーを楽しめる特色の多いマリナー・リゾートです。

しかし、人口減少の波は神津島にも押し寄せ、東京都立神津高等学校も多いときには一二〇名もの生徒が在籍して

いましたが、平成二八年度は三一名にまで減少しています。このまま減少が続けば、将来的にはその存続も危うくなります。同校は今から四五年前、昭和四七年度に島の人々の念願がかなって開校した学校です。それまでは、高校へ進学したい島の生徒たちは、中学校を卒業すると、本土の高校などへ行かなければなりません。学費や住居費などのお金もかかり、本土への進学もままならない時代が続いていました。向学心の強い生徒は、夜間の高校に通いました。一六歳で日中は働き、夜は学校に通い勉強するという生徒が何人もいました。

もし、神津高校が廃校になると、以前のように進学したくても費用などの面から高校へ進学できない生徒たちが何人も出てくると思います。そうなると子どもたちの将来や



神津島：下田から約55km南に位置する。面積18.58km<sup>2</sup>、周囲33.3km。人口1,883人（平成28年11月1日現在）。伊豆諸島の島々をつくるときに神々が集まった島とされ、昔は神集島とよばれた。572mの天上山は山頂に砂地が広がり、花の百名山に選定されている。



美しい白砂が広がる前浜海岸。



ショートステイでの天上山登山。

向学心にも影響が出るのではと危惧しています。教育が人を創り、人が島を創ります。向学心のある子どもたちの願いを叶えてやりたいと強く思っています。

### ●ホームステイ先の確保で離島留学が実現

そこで本村では、高校の存続と活性化を図るため、平成二六年度から東京都と連携して、離島留学の計画を練り、今年度から実施しています。

留学形態は、ホームステイによる受け入れです。二六年度から本土の中学生を受け入れてくれるホームステイ先を見つけるため、村長、教育長、教育課長が島の方々を訪ね

歩きました。

その結果、ようやく一軒の家で高校存続と活性化のために留学生を受け入れてよいという返事をいただきました。これは大変嬉しいことで、ひとつ前に進めば、今後もできそうだという希望が広がります。

離島留学の対象は、都内に住所を有し都内の中学校を卒業する見込みの生徒です。初年度となった平成二八年度は一名を受け入れました。

都和相談して、まず島の生活や神津高校の様子を見学・体験してもらうため、二七年八月の夏休み中に、神津島での一泊二日のショートステイを実施しました。五家族の申込みがあり、その中の一人が、今年度受け入れた生徒です。なお神津島村では、ホームステイ料八万円(月額)のうちの半額程度を助成し、保護者の負担軽減を図っています。

### ●予想を上回る応募があった今年度のショートステイ

平成二九年度は三名を受け入れる予定ですが、二八年七月に実施したショートステイには、三六組の応募があり、予想以上の反応に驚きました。しかし島側では、最大八家族分の受け入れ態勢しか準備していませんでしたので、やむなく八家族を抽選の上、来島してもらうことにしました。滞在期間中は、学校説明会、島内見学、シユノーケリング体験、釣り体験などを実施しました。

ショートステイ終了時に参加した家族に、「将来神津島  
の高校へ入学させたいですか」と質問したところ、「これ  
まではあまり入学させたいとは思っていなかったが、参加  
してそう思うようになった」という家族が五組ありました。

また、「島の方々が優しくて住みたい村だと感じました」  
「親としては、子どもが島で学びたいと選択した場合には、  
全面的に応援するつもりです」ととても楽しく過ごすこと  
ができました。入学できるとよいと思いますが、受け入れ  
先が少ないので、寮が整備されてもつと（島外からの）入  
学者数が増えればいいなと思います」「高校入学希望、受験  
希望を前向きに検討できる貴重な体験になりました」と、  
多くの感想が寄せられました。

これらショートステイを体験された方々が、離島留学に  
応募してくださることに期待を寄せています。

### ●島に溶け込み活躍する留学生

今年度、離島留学生として島に来た生徒は、最初はホー  
ムシックになったのか、元気がないときもありましたが、  
五月の連休明けごろから明るくなり、島の夏祭りに参加し  
て神輿を元気よく担いだり、村民運動会で活躍したりと、  
地域の中にも溶け込んできています。

その生徒は、「学校では、最初は自分から話すことが難  
しかったですが、今は自然に話せるようになりました。先



全校生徒31名が通う都立神津高等学校。

輩とも話すことができるよ  
うになりました。中学校の  
時には、学校の展示会や合  
唱コンクールなどの行事で、  
自分から進んでやったとい  
う思い出はありませんでし  
た。でも神津高校の文化祭  
では、レストランを出店し、  
ハヤシライスの係として忙  
しく動き回りました。自分  
分でやっていることを実  
感できて楽しかったです。

村の人はあいさつをすると、必ず返してくれます。特に役  
場の人たちはよく声をかけてくれます。先生方とも気楽に  
話すことができます。今度、校長先生と一緒に釣りに行く  
約束をしました」と、話してくれました。少人数ならではの  
の、和気あいあいとした雰囲気伝わるかと思います。

神津高校は生徒が三一名に対して、先生の数は、講師の  
先生も含めると一五名もいます。都内の高等学校では、考  
えられないほど学習において充実した環境が整っています。

### ●寮を整備、受け入れ態勢の強化へ

今後、毎年ホームステイ先を見つけ、受け入れ人数を増

## ◆学校からみた離島留学◆

東京都教育委員会は、平成28年2月に「都立高校改革推進計画 新実施計画」を策定し、その目標の一つに「生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす学校づくりの推進」を掲げている。

今年度から、神津高等学校でスタートした「ホームステイ方式による島外生徒の受け入れ」は、この目標を達成するための取り組みの一つである「島しょにおける教育の充実」に示されている事業である。この事業は、東京島しょ地域（伊豆諸島・小笠原諸島）以外に在住の中学生に、島しょ地域での高校生活や日常生活の体験を通じて、島しょ地域の高校で学ぶことの魅力を感じてもらおうことを目的としている。

本校の平成28年度入学生として、この事業により北区から1名の男子生徒が入学し、ホストファミリーの元から通学している。入学した当初は、親元が恋しくなったのか、元気がないように感じられた時期もあったが、ゴールデンウィーク後には部活動にも参加するようになり、クラスメイトとも仲良く過ごしている。

神津島には中学校が1校しかなく、卒業後は内地の高校へ進学する生徒も少なくないため、校長として、本校の学校行事や部活動などを活性化し、学校全体を元気にするためにも、この事業の持つ意義は大きいと感じている。

昨年7月23日（土）から24日（日）までの1泊2日の日程で実施した「中学生 島しょ体験ショートステイ」には、8組（1組4名以内）の募集に対して、36組83名の応募があり、島しょの高校で学ぶことに対する興味・関心の高さがうかがえた。

9月8日、平成29年度東京都立高等学校入学者選抜実施要綱・同細目が公表され、10月13日のホームステイ生徒選考実施要項により、神津島村の募集人員が3名であることが明示されるなど入学者選抜が本格的に始まっている。

今回の入学者選抜からは八丈町も留学生を2名募集することになるため、受験者の選択幅は広がることになるが、神津島と八丈島の環境の違いなどをしっかりと見極めてもらいたい。青い海が見え、波の音が聞こえる教室で、若くて、情熱に満ちた先生たち、上下関係がなく、素直で明るい生徒たちと学ぶことができる神津高校を進学希望先の一つに加えてもらえればと願っている。

（東京都立神津高等学校 校長 橋本広明）

### 石野田博文（いしのだ ひろふみ）

神津島村教育委員会教育長。昭和27年神津島生まれ。早稲田大学社会科学部卒業。同54年、小平市を皮切りに神津島・多摩市・大島と17年間教員を務める。その後、教頭として8年間勤務し、最後は教員に戻る。平成25年10月から現職。

やしていくことは困難であると考えています。そこで、現在、離島留学のための寮の整備を検討するなど、受け入れ態勢のさらなる充実化を図っていくつもりです。寮は、平成二九年度中に建築する計画です。翌三〇年度からは、毎年四名程度の留学生を受け入れ、将来的には三学年で二一

名程度にしていけたらと考えています。神津島に離島留学した生徒たちが、本物の自然や人との関わりに触れ、将来にわたって日本や東京、そして神津島で活躍する「人財」に育ってくれることを願っています。